

『自分に合った仕事の話』

◇登場人物

- ・男1 (喜久山)
- ・バンドマンの男 (志喜屋)
- ・めぐみちゃん (兼島)

(★) ——その動き・行為を何度も繰り返す。

【1 ライブハウスの詩】

恋がぼくを殺しにきました。
うつくしい風が、ほほを撫でる。
過去、だれかが死んだとき、
爆破のとき、スカートをめくったとき、
ふいた風がいま、きみを撫でる。
時間の先にあるものが、無意味だとして、
ぼくは、それでもただきみをみつめて、生きていく。
ぼくの、人生に価値や意味があるのか。
きみがいれば、
ぼくなどいなくても変わらない、そのことが好きです。
きみが好きです。

『ライブハウスの詩』最果タヒ

【2 バンドマン・自宅】

バンドマンの男、やってくる。
椅子に座り、まっすぐに何かを見つめる。

男1 いまここに、男の人がいます。この人は椅子に座って、何かを見ています。

腹を搔く。

男1 この人は、街とかで、気付かれたり声をかけられることはほとんどありませんが、職業はミュージシャンです。マイナーなロックバンドのサポートをしたり、地下アイドルと呼ばれるような女性グループに楽曲を提供したりしています。彼はいま、人生をとて楽しんでます。生まれてきてよかったです、いままさに思っている最中です。……
彼はいま実家に暮らしています。その実家の隣には、学校があつて、それは高校で、その高校の校舎と彼の家はだから、すぐ近くです。彼は2階の自分の部屋で、曲を作っている以外は、そこでオンラインゲームとかユーチューブとか、あとは2ちゃんねるのまとめだとかそういうたふうにごろごろしています。でもいまは、そのどれもやっていない時間です。

腹を搔くのをやめる。

バンドマンの男は、次のようなことをする。

ペットボトルのお茶を一口飲む。

包み紙を広げ、ガムを噛む。

畳まれたティッシュをひろげ、汗を拭く。

畳まれたタオルをひろげ、汗を拭く。

男1 彼の視線の先には、ある女の子がいます。彼は、その女の子を見て

います。まじまじと。その女の子は、彼の家の隣にある高校の女子生徒です。名前は、ここでは仮に「めぐみちゃん」と言います。彼がいる2階のこの部屋からは、めぐみちゃんのいるクラスの様子が、教室の窓を通して、よく見えます。だから彼はいま、その女の子がいるクラスの様子を、じつとりと見ています。そのなかでも、めぐみちゃんを見つめています。

立ち上がり、部屋を出て行く。

【3 めぐみちゃん・教室】

男1 女の子はいつも放課後になると、時間でいうと夕方5時頃になると、

一人教室にやってきました。

めぐみちゃんが登場

持っていた鞆を机に置く。

コンビニ袋から、お茶とおにぎりを取り出す。

椅子に座り、スマートホンを取り出し、操作する。

男1 一人教室にやってきました、高校生のめぐみちゃんは、自分の仕事をします。高校生らしい仕事です。

めぐみちゃんは、父親がいません。父親のいないめぐみちゃんはお母さんと妹と3人で暮らしています。お父さんとは、10歳の頃にお父さんが家を出て行ってからは、もう随分と会っていません。お母さんや周りの人は、めぐみちゃんたち姉妹の前では、お父さんの話は一切しようとしません。だから、お父さんがいまだどこで何をしているのか、めぐみちゃんは知りません。

ゆつくりと服を脱ぎだす。

(途中で何度か、休憩を挟むようにお茶を飲む。)

男1 めぐみちゃんのお父さんは、カメラマンでした。ファッション誌な

どのモデルさんたちをよく撮影していました。そのことを、めぐみちゃんには全然覚えていません。

めぐみちゃんのお父さんは、カメラが大好きで、めぐみちゃんのこともちろん大好きで、だから、よくめぐみちゃんの写真を撮りました。本当にたくさんさんの写真を撮っていました。その時の写真の数々のデータが、お父さんのパソコンのハードディスクの中に、いまでもたくさん保存されています。お父さんはいまでも、ときどきその写真たちを

眺めています。でも、そのことも、めぐみちゃんは知りません。

(♪2 止) 時々お父さんは、めぐみちゃんに、ポーズを取るようには、後ろを向いてお尻を突き出さないと言いました。ある時は、その指示に従ったので、お父さんがいつも褒めてくれました。そして、お菓子やかわいい洋服をたくさん買ってくれました。だから、めぐみちゃんは、お父さんとの写真撮影の時間が大好きでした。

このときまでには、服を脱ぎ終わっている。

脱いだ服やお茶などを、すべて鞆に入れて出て行く。

【4 バンドマン・仕事】

バンドマンの男、出てきて、地べたに座る。

男1 このバンドマンの男の人は、金持ちです。貯金額とかはちよつとあれですけど、でも普通に何千万とかそれくらいはあります。それは本業のミュージシャンというより、副業の方で稼いでいて、そうなるかどうか問題が出てきますが……。

いまでもその、副業の方を、この男の人はしている最中です。

ペットボトルのお茶を飲む。

男1 この男の人は、お花見の場所取りをしています。知り合いの人がいるので、よくこのような代理・代行の仕事が入ります。

彼は売れっ子の代理人で、結婚式に代理で出席したり、ある女性の恋人を演じてご両親に挨拶をしたり、ある人の行きつけのカフェの女子に告白したり。そして今日は、ある会社のお花見の場所取りをしています。いまは深夜2時です。明日の夕方6時まで、ここで場所取りをします。

なぜか小分けにされたおにぎりを食べる。(★)

男1 この男の人は、でも、この仕事が大好きです。

音楽の仕事と同じくらい、この代理・代行の仕事が好きです。それに今日は、とてもいい日です。今日は、学校以外でめぐみちゃんと会えるからです。めぐみちゃんは時々、夜、どこかの男の人と、屋外で、セックスをします。そのようなスリリングなセックスがめぐみちゃんは好きで、よくこの公園を利用しています。そして今日もそうすることになっています。そのことを知っているこのバンドマンの男の人は、その行為が見れるのを楽しみにしているのです。

めぐみちゃんが出てきて、バンドマンの男の前を横切っていく。

めぐみちゃん、椅子に座る(背もたれに腹をつけるように)

めぐみちゃん、服を脱いでいく。

男1 バンドマンの男の人は、めぐみちゃんのセックスを見ています。まじまじと。彼は、めぐみちゃんのセックスを見ることに、大きな喜びを感じています。時々、彼は思います。女の人とセックスをすること、その女の人のセックスを見ること、いったいどちらが幸せなことだろうか。でも、いまだに答えは出ていません。

バンドマンの男、いなくなる。

【5 めぐみちゃん・仕事】

新しい服を着る。

脱いだ服を袋に入れ、それを鞆に入れる。

男1 いま脱いだ服は、二万円です。

おにぎりを口に入れ、すぐにラップに取り出す (★)

男1 これは、一個三千円です。(めぐみちゃんがおにぎりを一個ずつラップに包む度に) 三千円です。

ペットボトルの水を口に含み、それを容器内に戻す (★)

男1 (一本ごとに) 五千円。

ガムを噛んで、すぐに取り出し紙に包む (★)

男1 一万円です。

ティッシュで鼻をかむ (★)

男1 一〇万円。

タオルをズボンに入れ、取り出し、ビニル袋に入れる (★)

男1 八〇万。

めぐみちゃん、荷物を全て鞆に入れ、それを持って退場。

(J3 止)

【6 バンドマン・自宅】

バンドマンの男、やってくる。

椅子に座り、まっすぐに何かを見つめる。

男1 いまここに、バンドマンの男の人がいます。この人は椅子に座って、何かを見えています。

バンドマンの男は、次のようなことをする。

小分けにされたおにぎりを食べる。

ペットボトルのお茶を一口飲む。

包み紙を広げ、ガムを噛む。

畳まれたティッシュをひろげ、汗を拭く。

畳まれたタオルをひろげ、汗を拭く。

男1

彼の視線の先には、ある女の子がいます。彼は、その女の子を見ています。まじまじと。その女の子は、めぐみちゃんです。彼がいる2階のこの部屋からは、めぐみちゃんの様子が、よく見えます。だから彼はいま、めぐみちゃんを、じつじつと見えています。

ちなみに私は、めぐみちゃんをじつじつと覗いているバンドマンの男の人を、覗いています。

時々、私は思います。ある女の子の様子をじつじつと覗くことと、その女の子が覗かれている様子を覗くこと、どちらが幸せなのでしょうか？ いまだに答えは出ていません……。

申し遅れました。私、めぐみの父でございました。

男1、お辞儀。

男1、去っていく。

了